



急発展する中国内陸部

—日本国際貿易促進協会訪中記—

環日本海経済交流センター長 藤野 文悟

リーマンショックに端を発した世界経済の大変動のなかで、中国の経済は大きな変革を遂げようとしている。一言で言えば中華という巨大な世界の総合的發展が始まったということであろうか。

本年7月上旬、日本国際貿易促進協会の2010年度訪中代表団に副団長兼富山県環日本海経済交流センター長として参加した。団長は同協会会長の河野洋平氏である。今回の訪中団は、「中国の新しい変化をこの目で見よう」という趣旨で、中国内陸部、特に發展の中核となると思われる湖北省と湖南省を訪問することになった。予想は適中したと云うべきであった。中国内陸の發展は想像以上であった。幾つかのポイントを挙げて見ると、第一に、高速鉄道の急速な普及を軸とするインフラの整備、第二に、新規産業、特にIT関連、省エネ、環境関連産業の發展、第三に、流通事業の發展に象徴される内需の急速な拡大、を指摘することが出来る。特にリーマンショック直後、素早く実施された4兆元（約56兆円）にのぼる政府の緊急経済対策が主として鉄道など交通網の整備に使用されたことは、内陸の發展の大きな推進力となった。時速330kmを超える高速鉄道が武漢と広州を3時間強で結んでいる。湖北省の省都武漢から湖南省の省都長沙を経て広州へ至る交通網の整備は華南経済圏と中部経済圏を確実に結び、中国はいよいよ点から線へ、そして面へと發展しつつあることを証明している。湖北省は来年100周年を迎える辛亥革命発祥の地であり、地理的には全中国の中心に位置する交通の要衝でもある。理工系の大学も多くIT産業の中核ともなるだろう。湖北・湖南両省共、肥沃な農村を有して居り都市と農村が結合した新しい發展のモデルが模索されるのではないか。長沙では次世代のリーダーの一人と目されている湖南省党書記の周強氏と会談した。温厚な人柄との印象を持った。また、両省視察後北京で王岐山副総理とも会見した。王氏は中国経済の現状と持続的発展を自信満々に語っていたが、印

象的であったのは「G7が中心の時代はもう終わり、今後はG20が中心となる」と語ったことである。國務院の發展研究センターとも意見交換を行った。私から米ドル基軸体制が崩れつつあるなかで中国人民元の存在価値が高まりつつあり、日本円と人民元との何らかの協調を模索すべきではないかと問題提起を行ったところ、中国側も決して否定的ではないとの印象を持った。

今般中国共産党第17期中央委員会第5回全体会議（5中全会）が開催され、2011年より第12次5ヵ年計画がスタートする。農村の發展、格差の是正に向けて本格的内需の拡大が始まる。政治的には第5世代の集団指導体制のトップが習近平氏であることがほぼ明確になり、2012年の政権交代への準備が進むだろう。日中関係は尖閣諸島の問題でぎくしゃくしたが事態は沈静化に向かいつつある。日中関係の大局より考え、平和裡に解決する知恵を出さねばならない。当面民主党は中国政府との人脈の構築を急がねばなるまい。何よりも日中間の相互信頼関係を一日も早く構築することだ。中国の經濟發展のモデルは今後いろいろ変化して行くものと思われるが、中華世界が引き続き高度成長を維持しアメリカに匹敵する一大勢力となって行くことは間違いあるまい。隣国たる日本はその趨勢に政治的にも経済的にも大きな影響を受ける。中国全土の総合的發展は日本の産業構造の改変をも促すだろう。日本が今後どの様に中国と向き合うか喫緊の課題となって来たことを認識しなければならない。又、中国の巨大市場の分権化も進むだろう。日本の地方都市相互の直接交流も頻繁に行われよう。富山県は北陸、環日本海の中軸たる産業県として中国の地方との交流の潜在力は極めて高い。中国東北3省のみならず、環渤海、華東、華南、更に中西部との直接交流を活発化すべきである。それは必ず富山県の産業の活性化につながると考える。

(以上)